

屋根裏男
と
屋根の上

猫田 あきと

屋根裏男と屋根の上

ソラタ

屋根裏男

兄

医者

母

猫田 あきと

夜中、ソラタの部屋。

ソラタはパジャマ姿でベッドで寝ている。

上からドンドンと足音が聞こえてくる。

ソラタ、ベッドの上で起き上がる。

ソラタ 屋根裏男さん。まだ、起きてるの？

屋根裏に男が現れる。足を踏み鳴らしたり、ジャンプしたりして天井を鳴らしている。

屋根裏男 俺はお前が起きているうちは寝ないさ。

ソラタ 早く寝たほうがいいよ。

屋根裏男 わからない奴だなあ。お前が起きているうちは寝ないって言ってるだろ。

ソラタ あんまり騒ぐとお母さん起きるよ。

屋根裏男 だからお前が寝ればいいんだよ。

ソラタ ……そっか、寝られないのか。僕もなんだ。

屋根裏男 ……（天井を鳴らす）

ソラタ 毎日毎日、一日中横になってるから、夜になっても眠れないんだ。

屋根裏男 ……（天井を鳴らす）

ソラタ 屋根裏男さんも、ずっと屋根裏にいたら眠れないよね。

屋根裏男 お前と一緒にすんな。俺は屋根裏にいたいから屋根裏にいるんだ出たくても出られな

いお前とは違うさ。

ソラタ ……そうだね。やっぱり出られないのはツライね。

屋根裏男 ……（天井を鳴らす）

ソラタ 今は無理だけど、昔みたいに元気になったら、きっと僕、屋根裏に行くよ。そしたら会って話そうね。

屋根裏男 キシキシシ、笑っちゃうね。俺の声が聞こえない奴と、どうやって話すんだ？お前頭

悪いな。

ソラタ きっと元気になるよ。それで、一緒に外に出て遊ぼう。

屋根裏男 俺は行かないね。俺はここが好きなんだ。

ソラタ うん、ありがとう。ちょっと元気になった。頑張って治すよ。お休み。

屋根裏男 ……治らねえよ。バカ。（天井を鳴らす）

ソラタが寝ると、屋根裏男は姿を消す。

暗転。

2

朝、ベッドにソラタが座っている。屋根裏では屋根裏男がゴロゴロしている。

ソラタ 今日、よく晴れてるね。

屋根裏男 一日中ここに閉じ込められてるお前には天気なんて関係ないだろ。

ソラタ 晴れの日が嫌いだ。誰が晴れが「いい天気」なんて決めたんだろう。

屋根裏男 お？お前にしちやあ、ちよつと面白いこと言ったな。でも、そんな事はどうだってい

いさ。

ソラタ 屋根裏男さん？

屋根裏男 なんだ？

ソラタ 今日はいないの？

屋根裏男 いるよ。

ソラタ ……いないのかな。

屋根裏男 ……（天井を鳴らす）

ソラタ いるんだね！よかった。

屋根裏男 ……。

ソラタ 晴れの日には嫌いだけど、今日はワクワクしてるんだ。

屋根裏男 …へえー。一日中寝てるだけの奴に楽しみなんであるのかい。

ソラタ 兄さんが来るんだよ。

屋根裏男 ああ、あのウソツキ男か。あれの何が楽しいんだ？

ソラタ 久しぶりに家に帰ってくるんだ。また、いっぱい楽しい話が聞けるよ。屋根裏男さんも聞くでしょ？兄さんの遠い所のいろんな話を聞くと楽しくてワクワクするんだ。まるで僕が外に出て旅してみたい気分になるしね。

屋根裏男 あーあー。本気で信じてるのか？あんなのデタラメだぞ。何も知らないお前をからかって喜んでるのさ、あのウソツキ男は。

ソラタ それに兄さんは屋根裏男さんのことも信じてくれるし。

屋根裏男 お前に合わせてるだけだよ。俺がここにいるなんて、これっぽっちも信じちやいないね。

ソラタ 屋根裏男さんも、兄さんと話せて楽しいでしょ？

屋根裏男 ……（天井を鳴らす）

ソラタ そうだよな。良かった。本当は嫌いとか言われたらどうしようかと思った。

屋根裏男 ……（天井を鳴らす）

ソラタ 屋根裏男さんはいつもそういう言い方するんだね。素直じゃないなあ。

屋根裏男 ……（天井を鳴らす）

ソラタ おみやげも楽しみなんだけどね。でも、やっぱり兄さんの話を聞くのが一番の楽しみだよ。

屋根裏男 ……俺は何も言っていないぞ。

兄（ドアの外から声） おーい。開けてくれ！

ソラタ 兄さん！

ソラタ、走って行ってドアを開ける。兄が大きな紙袋を両手いっぱいを持って部屋に入ってくる。

兄 ソラタ、久しぶりだな。ん？ちょっと大きくなったんじゃないか？

ソラタ そんなにすぐ大きくならないよ。

兄 そうか？んー、まあいいか。ほら、お土産だ。

ソラタ これ、全部？

兄 ああ、せーんぶ、だ！

ソラタ すごい、たくさんあるんだね！

兄 何しろ二人分だからな。

ソラタ 二人？

兄 ソラタと屋根裏男さんの分だ。

ソラタ 本当に？！あ…でも、どうしよう。

兄 何がだ？

ソラタ 僕は屋根裏には行けないし、屋根裏男さんは屋根裏から出て来れないんだ。

兄　　そうなのか？うーん、せっかくのお土産なのになあ……。よし、じゃあ兄ちゃんが屋根

裏に持って行ってやるよ。

ソラタ　　そうか、それなら大丈夫だね。

兄　　ああ、ほら開けてごらん。

ソラタ　　わあ！

ソラタが土産を見ている間、兄はソラタを眺めている。屋根裏男は興味なさそうに寝そべっている。

辺りが暗くなり、兄に光があたる。

兄　　弟は病気だ。原因はわからない治療法もない。ただ、外に出ることもできず、この狭

い部屋で毎日長い一日を過ごしている。できるのは本を読むくらい。それから人の話

を聞いたり、空想したり。昔はよく一緒に外で遊んでいたが、今ではそれもできない。

屋根裏男に光があたる。

屋根裏男 あいつは病気がらしい。この部屋で毎日俺に話しかけながら寂しさを紛らわしている。

昔は外で遊んでいたらしいが、俺は知らない。

兄 寂しさを紛らわすためか、この屋根裏に「屋根裏男」がいるんだと言う。こんな所で

何もやることがなければ、そんな空想も仕方がない。いつしか本当にいると思いついてしまったらしく、よく独りで天井に話しかけている。

屋根裏男 俺の声は誰にも聞こえない。天井を踏み鳴らす音だけが俺の存在らしい。あいつ以外

は俺の存在を信じるバカはいない。

兄
それを見ると切なくなる。でも、弟が信じているのだから、その気持ちを壊したくはない。弟には幸せでいて欲しい。

屋根裏男
このウソツキ兄貴だけが、あいつと話を合わせている。他の奴は否定するだけだ。ウソツキ兄貴は何がしたいのか、俺にわざとらしく話しかけてくる。もちろん俺の声は聞こえない。病気の弟を騙すなんて悪い兄貴だ。

明るくなり、ソラタが手にした飛行機のおもちゃを見て手を止める。

ソラタ
あ、飛行機だ！！

兄
気に入ったか？カッコイイだろ？

ソラタ
わあ…いいな。こんな飛行機で空を飛びたいな。

屋根裏男　イヒヒあひゃひゃ！お前アホだな。そんなちっこい飛行機で飛べるわけねえだろ。

屋根裏男、転げまわって笑っている。バタバタと音が鳴り、兄は少し天井を気にする。

兄　　そうか、元気になったら、飛ぼうな。

ソラタ　そのときは、屋根裏男さんも一緒だよ。

兄　　そうしよう。でも、屋根裏男さんは屋根裏から出られるのかな？

ソラタ　　僕が元気になったら出られるよ。

屋根裏男　また、その話か…俺は出ないって言ってるだろ。

兄　　そうなのかい？

ソラタ　　僕が屋根裏に行って連れだすんだ。

屋根裏男 大きなお世話だ。

兄 そうか。じゃあ、頑張って元気にならないとな。

屋根裏男 おいおい、余計なこと言うなよ。

兄 さて、どれを屋根裏男さんにあげようか。

屋根裏男 いらねえよ。

ソラタ うーん…じゃあ、これ。空の絵はがき。屋根裏からは空が見られないでしょ。だから、

代わりにこれを見たらきつといいと思うんだ。それから…

屋根裏男 …。

兄 ちょっと待て、ソラタ。あんまりたくさんは持っていけないぞ。屋根裏男さんがここ

に降りてくるならともかく、兄ちゃんはそれを持って屋根裏に行かなくちゃならない。

ソラタ あ、そうか。…じゃあ、この絵はがきと、この人形だけ。

兄 わかった。

兄は、その二つを持って屋根裏へ向かう。屋根裏男は座っている。

正面に兄が来るが、兄は奥へと眼を向けている。

兄
屋根裏男さん。そんなに奥にいないでこっちへ来たら？お土産だよ。

あらぬ方向に声をかけている兄の横で屋根裏男はじっと兄を見ている。

兄
じゃあ、ここにおいておくよ。驚かせてごめんね。

兄、部屋に戻る。

ソラタ 屋根裏男さん、どうしたの？

兄 うん。屋根裏男さんは恥ずかしがりやだったんだね。奥のほうにいて、こっちに来てくれなかったから置いてきたよ。

屋根裏男 ……………（天井を鳴らす）

兄 あ、喜んでくれてるみたいだね。

ソラタ 良かったあ。

屋根裏男 ……………（天井を鳴らす）

ソラタ ねえ、兄さん。今回はどんなところに行ってきたの？

兄 ん？今回はなあ、外国の大都会さ。びっくりするくらい高いビルが建ち並んでいて、夜になっても昼間みたいに明るいんだ。

ソラタ わぁ…すごいね。じゃあ、夜でも怖いことがないね。

兄 うーん…明るいけど、いろんな人がたくさんいるからね。中には悪い人もいるし、

恐くないってことはない。ソラタは、夜が怖いのかい？

ソラタ ううん、そんなことないよ！ただ…暗い部屋で独りでいるのが寂しいだけ。

兄 ……。でも、屋根裏男さんがいるだろ？

ソラタ うん…うん、そうだね。

屋根裏男 俺は別に暗くかろうと一人だろうと大丈夫だけどな。

兄 ソラタ。どうしても寂しくなったら、その飛行機を見てごらん。兄ちゃんは、遠くに

いたらソラタのところには行けないかもしれない。でも、その飛行機がきつとソラタ

を元気にしてくれるよ。その飛行機は、ソラタに勇気を運んできてくれるから。

ソラタ 勇気を…運んでくれる？

兄 そうだ。ソラタが寝ている間にな、その飛行機は毎日、ソラタのために勇気を集めて

おいてくれるんだ。だから、ソラタが必要なときには、その勇気をくれる。

ソラタ
……………

屋根裏男　また、ウソツキ兄貴の嘘が始まったよ。そんなおもちゃの飛行機が勝手に動くわけな

いだろ。あーあー、あの顔は真に受けてるね。頭悪い奴だなあ。

ソラタ　うん。じゃあ、大丈夫だね。どうしても辛くなったら、この飛行機から勇気をもらおう

よ。

兄　　ああ。

屋根裏男　ふーん。まあ、勝手にしろよ。

屋根裏男、絵葉書を手に取り眺める。

屋根裏男 (天井を鳴らす)

ソラタ あ、ごめんね、屋根裏男さん。屋根裏男さんも話の続きが聞きたいって。

兄 そうか、そうだったね。兄ちゃんはそんな都会に行ったんだ。空を見上げると、ビルに囲まれていて、空が四角く見えるんだ。それから、ビルの間を吹く風は強くてね、ビュービュー吹いてる。夜には、街が明るすぎて星は一つも見えないんだ。月もかすんで見える。車の排気ガスなんかで、空気が濁っているからなんだ。夜は特に悪い人によく出会うんだ。気をつけないと痛い目にあう。

兄、ソラタに話続ける。屋根裏男は絵葉書をじっと眺めている。

屋根裏男 ……空……か。

ノックの音。兄は、話をやめる。

ドアの向こうから母の声。

母　ソラタ。先生がいらっしやたわよ。

ソラタ　…うん。

兄　どうぞ。

ドアが開いて、母、医者が入ってくる。

医者　やあ、ソラタくん。元気かい？お兄さんが帰ってきていたんだね。じゃあ、楽しい話

が開けたかな？

ソラタ …はい。

医者 そうか。それは良かった。

屋根裏男 何がいいもんか。俺はいい迷惑だ。

医者 どれ、じゃあ口を開けてこらん。

医者、診察を始める。

医者 ふん。特に問題はないようだね。じゃあ、いつものように薬を出しておきます。

母 どうもありがとうございます。

ソラタ …あの。

医者 どうかしたかい？

ソラタ、飛行機を見つめる

ソラタ ……あと、どのくらいで外で遊べるようになりますか？

医者 ……

屋根裏男 ……（天井を鳴らす）

医者 ……そうだね。ソラタくんが、先生とお母さんの言うことを聞いて、おとなしくしていれば、そのうち前と同じように遊べるようになるよ。

ソラタ それは…いつですか？

医者 はっきりとは言えないね。

ソラタ どうして…

医者 ともかく、良くはなってきたから心配せずにおとなしくしていなさい。今に外でも遊べるようになる。

母 ソラタ。先生が大丈夫だって言っているんだから大丈夫よ。ね？

屋根裏男 で、その先生様とやらの言うことは本当なのか？

ソラタ …

屋根裏男 ほら、言ってみてやれよ、「ウソツキ野郎」って。

兄 ソラタ。

屋根裏男 そっちの兄貴にもいってやれよ「ウソツキ兄貴」って。

ソラタ ……本当ですか？

医者 ああ。

母 ソラタ。もういいでしょう？

屋根裏男 そいつら全員ウソツキだぞ！

ソラタ ……はい。

屋根裏男 (天井を鳴らす)

医者 楽しい話もいいが、少し休んだほうがいいね。お兄さん、いいかな？

兄 はい。じゃあ、ソラタまた後でな。続きは少し休んでからだ。

ソラタ ……うん。

母 ちゃんと寝てるのよ。

ソラタ ……うん。

医者、兄、母、部屋を出て行く。

ソラタ ……いつか、昔みたいに遊べるんだよね？

屋根裏男 どうだかなあー、あいつらはウソツキだからな。

ソラタ そしたら、一緒に外で遊ぼうね。

屋根裏男 だから、俺は出ないって言ってるだろ。

ソラタ また…静かになったね。

屋根裏男 (天井を鳴らす)

ソラタ 一日中ここで横になってるのに、今から寝ろって言われても寝られるわけないじゃないか。

いか。

屋根裏男 まあ、そりやそうだ。あいつらは一つもお前の話を聞きちゃくれないぜ。何言っても

無駄さ。

ソラタ 屋根裏男さん。僕はそれでも、絶対また外に出て遊ぶよ。絶対元気になるよ。

屋根裏男 気持ちだけじゃどうにもならないことも世の中にはあるって知らないのか？

ソラタ そうだよね。気持ちが悪く落ち込んだら、治るものも治らないよね。

屋根裏男 (天井を鳴らす)

ソラタ ありがとう。元気が出たよ。飛行機もすごいけど、屋根裏男さんと話してるほうが、

僕は元気になるな。

屋根裏男 キシキシシ……お前、話すつてのがどういふ事かわかってんのか？

ソラタ 僕、一人じゃなくて本当によかったよ。

屋根裏男 (天井を鳴らす)

ソラタ、窓の外を見る。

ソラタ 都会じゃなくても……空は四角いよね。

屋根裏男、絵葉書を見る。

屋根裏男 そうだな、四角いな。

ソラタ 僕が寝ている間に、飛行機が勇気を探してきてくれるんだよね。

屋根裏男 おもちやの飛行機は勝手に動いたり飛んだりしないぜ。

ソラタ 僕……寝るね。

屋根裏男 そうしろ。俺がおもちやの飛行機は動かないことを証明してやるよ。

ソラタ おやすみ。

ソラタ、寝ようとする。しばらく、屋根裏男は飛行機を見ている。飛行機は動かない。

屋根裏男 ほらな。やっぱり動きやしない。お前の兄貴はウソツキなんだよ。

ソラタは寝てしまったらしい。

屋根裏男 (天井を鳴らす)

屋根裏男、去っていく。入れ違いに兄がソラタの部屋に入ってくる。

兄 ……ソラタ？寝たのか？

兄、ソラタの枕元にある飛行機を手取る。

兄

きつと…いつか、また一緒に外で遊ぼうな。絶対に、治る方法を見つけてやるからな。

屋根裏男。もし、本当にいるなら…弟を、ソラタを守ってやってくれ。寂しい思いや、

辛い思いをできるだけしなくて済むように。ソラタを独りにしないでくれ。あんたが、

弟の心の支えなんだ。

兄、天井がなるのを待つが、何の音もしない。

兄

…俺には応えてくれないか。それとも…お前は存在しないのか。

兄、飛行機を置いて、ソラタの部屋を出る。天気が次第に悪くなってくる。雨の音。

ソラタの夢の中。ソラタ、起き上がり、窓の外を見る。雨が降っている。

ソラタ わあ、雨だ！屋根裏男さん、雨が降ってるよ！

屋根裏男、屋根裏から降りてきて、窓の外を見る。

屋根裏男 本当だ。雨だな。雨って言うのは、こういうものだったのか。今まで音しか聞いたこ

とがなかったから知らなかった。

ソラタ あれ？屋根裏男さん、なんで屋根裏から出てこれたの？

屋根裏男 お前が元気になったからさ。

ソラタ え？

屋根裏男 ほら、ジャンプしてみろよ。

ソラタ、ジャンプしてみる。

屋根裏男 走ったりしてもいいんだぞ。

ソラタ 本当に？！

屋根裏男 ああ。もちろんだ。俺は嘘をつかない。

ソラタ 本当に治ったんだね。

屋根裏男 もちろんだ。さあ、約束どおり、外で一緒に遊ぼう。

ソラタ え…でも、雨が…

屋根裏男 関係あるもんか。雨だろうと雪だろうと、元気になったんだから外で遊ぼう。

ソラタ うん…でも…

兄が部屋に入ってくる。

兄 ああ、ソラタ。元気になったんだね！屋根裏男さんも屋根裏から出てくれたわけだ。

ソラタ 兄さん！

屋根裏男 やあやあ、ウソツキ兄貴。そうさ、コイツは元気になって、俺は屋根裏から出てきた

のさ。さあ、外で遊ぼう！

ソラタ 兄さんはウソツキじゃないよ。

兄 ああ、そうだね。じゃあ、外で遊ぶとしよう。

ソラタ でも、兄さん。雨が降ってるよ。

兄 何を言っているんだい？外はいい天気さ。雲なんて一つもない。

ソラタ え？

ソラタ、窓の外を見るが雨は相変らず降っている。

屋根裏男 今は雨さ。音を聞けばわかる。

兄 いいや、晴れさ。良く見ろよ。

屋根裏男 やっぱりお前はウソツキ兄貴だな。見ればわかる嘘までつくのか。

兄 嘘じゃない。今は晴れてるさ。

屋根裏男 もういい、わかったよ。どっちでもいいから、外で遊ぼうぜ。俺は別に雨でも晴れでも構やしない。

兄 そうさ、今は晴れさ。さあ、ソラタ外で遊ぼう。

ソラタ でも…

屋根裏男 なんだ、お前。外で遊びたくないのか？

兄 そうなのか？

ソラタ そうじゃないけど…

屋根裏男 なら、外に出よう。

ソラタ …

屋根裏男 俺は、一人でも外にでるぞ。

兄 そうか、じゃあ、兄ちゃんもそうしよう。

ソラタ 待って！

兄、待たずに出て行く。

屋根裏男 なんだ、早くしろ。

ソラタ 屋根裏男さんは…屋根裏から出られたのに屋根裏男さんなの？

屋根裏男 ふん。それは、確かに変だな。俺はもう屋根裏男じゃないな。

ソラタ じゃあ、何なの？本当の名前はないの？

屋根裏男 俺は屋根裏男だ。

ソラタ 名前がないの？

屋根裏男 そう呼ばれたことしかない。

ソラタ そんなのおかしいよ。ちゃんと名前があるはずだよ。

屋根裏男 誰も、他に呼んだ奴はいない。

ソラタ 僕と兄さん以外から呼ばれたことがないの？

屋根裏男 それは違う。

ソラタ どういうこと？

屋根裏男 俺は、お前にしか呼ばれたことはない。

ソラタ え？

屋根裏男 だが、もうそれも昔の話だ。今は違う。

ソラタ …うん。

屋根裏男 俺は、屋根裏男じゃなくなった。

ソラタ …うん。

屋根裏男 俺は誰でもなくなった。

ソラタ え？

屋根裏男 屋根裏男はもうどこにもいない。

屋根裏男、ソラタをおいて部屋から出て行く。激しい光、暗転。雷の音。

ソラタが目を覚ますと、ベッドから転げ落ちている。外は雨。

屋根裏男が、屋根裏にいる。

ソラタ 夢…？

屋根裏男 寝相の悪い奴だなあ。

ソラタ 屋根裏男さん！

屋根裏男 なんだ？

ソラタ 屋根裏男さん！！

屋根裏男 だから、なんだ？

ソラタ いるよね？屋根裏にいるよね？

屋根裏男 当たり前だ。俺は屋根裏から出たりしない。

ソラタ 屋根裏男さん！！

兄、部屋に入ってくる。

兄 ソラタ、どうした？！

ソラタ 屋根裏男さん、返事してよ。

屋根裏男 してるだろう。お前が聞いてないだけで。

ソラタ 屋根裏男さん！！

兄 おい、ソラタ落ち着け、どうした？！

ソラタ どうして…返事してくれないの？

兄 …ソラタ。

ソラタ 屋根裏男さん！

兄 ソラタ。落ち着け、兄ちゃんが見てきてやるから、な。大丈夫だ、きっと寝ているんだよ。

ソラタ 本当に？

兄 ああ、だからベッドに戻るんだ。今、兄ちゃんが見てきてやるから。

ソラタ …うん。

兄、屋根裏に上ってくる。兄は屋根裏男の横を通り過ぎる。

兄 やあ、屋根裏男さん。ごめんね、起こしてしまって…なにしろソラタが屋根裏男さん

のことを心配するものだから…（天井を鳴らす）

屋根裏男 おい。それはどういう意味だ。

ソラタ よかった。いるんだね。

屋根裏男 （天井を鳴らす）

兄は驚いて屋根裏男のいるところに眼をやる。

屋根裏男 俺は、ここだよ。

兄 ……………。何か……いるのか？

屋根裏男 ここだよ。

兄 ……………まさかな。

兄、屋根裏男の横を通り過ぎ部屋に戻る。

兄 屋根裏男さんは寝ていたみたいだよ。

ソラタ うん。よかった。ごめんね、起こして。

屋根裏男 ……………。今のは最高の侮辱だったよ。ふざけやがって。

ソラタ 屋根裏男さん？怒ってる？

屋根裏男 当たり前だ。そのウソツキ兄貴を今すぐ、この部屋から追い出せ。

ソラタ　ごめんね。起こして。でも、僕、すごく不安になったんだ…だから。

屋根裏男　そんな話してるんじゃない。そのウソツキ野郎を二度と俺に近づけるな！

ソラタ　…よかった。許してくれるんだね。

屋根裏男　（天井を鳴らす）

兄　ありがとう。悪かったよ。起こしてしまつて。

屋根裏男　誰が許すか…許されるわけがないだろうが。

兄　でも、どうしたんだ、急に？

ソラタ　嫌な…夢を見て…屋根裏男さんがいなくなるような気がしたから。

兄　…そうか。でも、それはただの夢だ。気にすることじゃない。

ソラタ　うん…うん。そうだね。

屋根裏男　俺は屋根裏にいるさ。お前がこの部屋にいる限り。

ソラタ　元気になったら…兄さんと僕と…屋根裏男さんと、皆で外で遊ぼうね。

兄 ああ。

屋根裏男 俺はここから出ないって何度も言ってるだろう。

ソラタ 約束だよ。

兄 ああ、約束だ。

屋根裏男 俺は出ないぞ。約束もしない。二人で好きにやってみようよ。

ソラタ 屋根裏男さんも、約束。

屋根裏男 (天井を鳴らす)

ソラタ うん。きつとだよ。

兄 少し、騒ぎすぎだな。熱が上がってきたみたいだ。

ソラタ うん。ねえ、兄さん。さっきの話の続きをしてよ。

兄 ん？ああ、そうしようか。静かに聴いてるんだぞ。

ソラタ うん。あ。

兄 どうした？

ソラタ 飛行機。

兄 ん？

ソラタ 僕が寝る前においたところから、少し動いてる。

兄 え？……ああ、きっとソラタが寝ている間に勇気を集めてきてくれたんだよ。

ソラタ そっか。

屋根裏男 (天井を鳴らす)

ソラタ あ、話の続き。

兄 ああ…そう、兄ちゃんは外国の大都市を一人で歩いてたんだ。空はどんより曇っていて今にも雨が降りそうだった。お昼時でね。兄ちゃんはもうお腹がペコペコさ。傘も持ってなかったから雨が降り出す前にどこかで昼ごはんを食べようと思っていたんだ…

兄が話し続けソラタが興味深そうに聞いている中、屋根裏男にだけ光があたる。

屋根裏男 あいつは、ウソツキ兄貴のあの話の何が面白いんだ？俺にはわからない。あんなのは

作り話だ。良くできたただの作り話だ。ウソツキ兄貴は作家にでもなればいい。それ

がウソツキ兄貴にぴったりの職業だ。いや、この家にいる奴はみんなウソツキだ。俺

とあいつ以外はみんな作家になればいい。嘘をついてるのなんて聞いてればわかる。

どうして、あいつは気付かないんだ？頭が悪いからか？それとも、あいつは俺の声と

同様、誰の声も聞いていないのか？俺には理解できない。（天井を鳴らす）

ソラタ どうしたの？屋根裏男さん。

兄 どうかしたかい？

屋根裏男、天井を鳴らし続ける。

ソラタ 屋根裏男さん？

天井の音、鳴り止まない。

ソラタ どうしたの？

兄は途方にくれている。天井の音、鳴り続ける。

ソラタ　　ねえ！

ソラタがベッドから出ようとしたのを見て、兄がそれを止める。

兄　　兄ちゃんが様子を見てくるから、ソラタはここにいるんだ。

ソラタ　　…でも

兄　　ここにいるんだ。

ソラタ　　…うん。

兄が屋根裏に上がっていく。屋根裏男が兄の前に立ちふさがる。

兄 屋根裏男さん。どうしたんだい？

屋根裏男 入ってくるな。

兄は何かを感じて屋根裏の前で立ち止まる。

屋根裏男 入ってくるな。ここは俺の空間だ、俺の世界だ。

兄 ……………

兄は屋根裏に入らずに部屋に引き返す。

ソラタ 屋根裏男さん。怒ってるね。

兄 ……あ、ああ。そうみたいだ。

ソラタ ……兄さん。僕、屋根裏男さんと話すよ。ちょっと、出でてくれる？

兄 え…ああ。わかった。

兄、部屋を出て行く。

ソラタ 兄さんがしたことが、何か気に喰わなかったんだね。ごめん。

屋根裏男 お前が謝ることじゃない。

ソラタ でも、兄さんは僕のことを思っているいろしてくれてるんだ。だから、許してくれな

いかな？

屋根裏男 ……(天井を鳴らす)

ソラタ うん。ごめんね。(咳き込む) ちょっと、騒ぎすぎだみたいだ。

ソラタ、横になる。

屋根裏男 ……(天井を鳴らす)

暗転

4

母と兄が話している。

兄 先生は？

母 お帰りになったわ。ソラタはどうだった？

兄 ……いつもどおり。特に変わりないよ。

母 そう…。

兄 昨日も来てたけど、先生は毎日来てるの？

母 ええ。

兄 酷くなってるのか…

母 ……

兄 ソラタは…やっぱり治らないのかな？

母 先生のお話では…症状を和らげることはできても治療法はないらしいわ。

兄 ……そうか。

母 ソラタは、まだ屋根裏がどうか言ってるの？

兄 うん。

母 ……。

兄 母さん。ソラタの言うこと、確かに突拍子もないし、現実にはないことかもしれないけど、でも…信じてくれないかな？いや、信じられなくてもいい。せめて、信じるフリだけでもしてくれないかな？

母 ……努力はしてみるわ。でも…あんまりにも…

兄 わかってるよ。でも、ソラタは独りで寂しいんだ。

母 ……そうね。

兄 ……。

母 ……。

兄 ……。

母 いつ、出るの？

兄 …もう、少しいたいけど、仕事があるから明日か明後日には戻るよ。

母 そう…あなたがいれば、ソラタも少しは寂しくないんだろうけど、仕方ないわね。

兄 ごめん。

母 いいのよ。本当は母さんが…ソラタの相手をしてあげないといけないんだし。

兄 …ごめん。

母 そろそろ…ご飯作るわね。

母、去っていく。

兄 …ごめん。

兄も、去っていく。

場所はソラタの部屋が変わる。ソラタと屋根裏男が遊んでいる。

屋根裏男が天井を鳴らすリズムをソラタが手で真似している。

屋根裏男 ふん。なかなかやるじゃないか。意外な才能だな。

ソラタ じゃあ、今度は僕からね。

ソラタが手をたたき、屋根裏男がそれをまねて天井を鳴らす。

屋根裏男 バカにしてもらっちゃ困る。このくらい朝飯前だ。

ソラタ 屋根裏男さん、うまいね。

屋根裏男 褒めるな。当たり前だ。

ソラタ へへ：もうちょっと練習してみるよ。次は屋根裏男さんだよ。

屋根裏男 うーん、そうだな。よし、じゃあ次はとびつきり難しいヤツだ。

屋根裏男が天井を鳴らそうとしたそのとき、兄が入ってくる。

兄 楽しそうだな、ソラタ。何をしてるんだい？

ソラタ あ、兄さん。今ね、屋根裏男さんが天井を鳴らすリズムを僕が真似して鳴らす遊びを
してたんだ。

兄 へえ：

ソラタ 兄さんもやる？

兄 うーん…

屋根裏男 (天井を強く、一度鳴らす)

兄 …

ソラタ あ…ごめん兄さん。屋根裏男さん、機嫌悪くなったみたい。

兄 そうか…せっかく楽しんでたのに悪いことをしたね。

ソラタ 兄さんのせいじゃないよ！

兄 …ありがとう、ソラタ。…実はな、またちょっと用事ができて明日にも旅に出ないと

いけないんだ。

ソラタ え…

兄 仕事だから仕方ないんだ。ごめんな。

ソラタ ……ううん。いいよ。帰ってきたら、また話してね。

兄 ああ。もちろんだ。

ソラタ じゃあ、今日は準備しないといけないんだね。

兄 ……ああ。

ソラタ そっか。わかったよ。

兄 ……ソラタ。

ソラタ 何？

兄 寂しくないか？

ソラタ え？

兄 兄さんがいない間、寂しくないか？

ソラタ ……

兄 なあ？

ソラタ 大丈夫だよ。屋根裏男さんがいるし、それに…

兄 それに？

ソラタ 飛行機が僕に勇気をくれるでしょ？

兄 ……

ソラタ だから、大丈夫だよ。

兄 ……そうか。じゃあ、安心して行けるな。

ソラタ うん。

兄 じゃあ、兄ちゃんは旅行に行く準備をするよ。屋根裏男さんと仲良く遊ぶんだぞ。

ソラタ うん。

兄、出て行く。

ソラタ ……

屋根裏男 お前もウソツキだったんだな。

ソラタ ……………

屋根裏男 寂しいなら、寂しいって言えばいいだろ。

ソラタ ……………

屋根裏男 もしかしたら、もう2、3日いてくれたかもしれないぜ？

ソラタ 迷惑…かけたくないよね。

屋根裏男 わからねえな。

ソラタ ねえ、屋根裏男さん。

屋根裏男 なんだ？

ソラタ 次に兄さんが帰ってくるまでに、僕、元気になれるかな？

屋根裏男 無理だろ。お前の病気は治らねえよ。

ソラタ ……………そうだね。うん。僕、本当は知ってたんだ。病気が治らないこと。

屋根裏男 ？！

ソラタ でも、みんな隠してるみたいだから……それに、本当は治るんだって信じたかったんだ。

屋根裏男 ……お前、俺の声が聞こえたのか？

ソラタ バカだよね。…最近、お医者さんが毎日きてるでしょ。

屋根裏男 ああ。

ソラタ 悪くなってるからなんだ、きっと。

屋根裏男 そうなのか？

ソラタ やっぱり、屋根裏男さんは気付いてたんだね。

屋根裏男 ……（天井を鳴らす）

ソラタ 死にたくないな。

屋根裏男 おい、何言ってるんだよ。

ソラタ　　せめて、兄さんが帰ってくるまで生きてたいな。

屋根裏男　変なこと言うなよ！お前、元氣じゃねえか！そりゃ、外には出られないし、走ったり

ジャンプしたりはできないけど。お前、元氣だろ？！

ソラタ　　ごめんね、屋根裏男さん。屋根裏から出してあげられなくて。

屋根裏男　そんなことはいいんだよ。俺はここにいたいんだから。

ソラタ　　本当にごめんね。

屋根裏男　……………あやまるなよ。

ソラタ　　ごめんなさい。

屋根裏男　あやまるなよ。

ソラタ　　…ごめんなさい。

屋根裏男　……………（天井を鳴らす）

ソラタ　　この飛行機も、外で飛べないね。ごめんね。広い空で飛びたいよね。

屋根裏男 開けよ。

ソラタ 僕も、四角い空でもいいから飛びたいな。

屋根裏男 開けて。

ソラタ 兄さんは、仕事だし仕方ないけど……屋根裏男さんは僕が死ぬまでそこにいてね。

屋根裏男 俺はお前がこの部屋にいる限り、屋根裏にいるさ。

ソラタ 兄さんには言えないけど。やっぱり独りは寂しいから。

屋根裏男 兄貴にも言えよ。

ソラタ ごめんね。わがままで。

屋根裏男 全然わかんねえ……お前の言うことは、全然わからねえよ。

ソラタ きっと、一緒にいてね。

屋根裏男 俺は………（天井を鳴らす）

ソラタ ありがとう

ソラタ、ベッドにうずくまる。泣いているのか、苦しいのか震えている。

屋根裏男は、ソラタをじっと見ている。

屋根裏男 この家にいるヤツは俺以外、皆ウソツキだ。一つも、本当のことを言わない。ウソツ

キばかりだ。こいつの兄貴も、母親も、医者も…こいつも、皆ウソツキだ。でも、だ

としたら、こいつが言っているようにこいつは治らないのか、それとも、こいつ以外

の奴らが言っているように治るのか？俺にはわからない。

ソラタ、いつのまにか静かに寝ている。

屋根裏男は、その様子を見て絵葉書を持って屋根裏からゆっくりと降りてくる。

屋根裏男 絶対に一緒に外で遊ぼうな。走り回って、跳び回って、飛行機で広い空を飛ぼう。そ

のときは、お前の兄貴も一緒だ。仲直りするよ。なあ……ソラタ。

屋根裏男、絵葉書を飛行機の後ろに置く。一度、窓の外を見て屋根裏男は部屋を出て行く。

ソラタは眠ったまま。静かな時間が流れる。

兄が部屋に入ってくる。

兄 ソラタ、ひとつ言い忘れたことがあったんだ。次に兄ちゃんが帰ってくるまでおとな

しく待って……ソラタ？寝てるのか？ソラタ？

兄はソラタの顔を覗き込む。枕もとの飛行機を手にとろうとして、絵葉書に気付く。

兄　　なんでこれが……

屋根裏を気にするが、何の音もしない。

兄　　まったく…無理したもんだな…。ソラタ？ソラタ。

兄、ソラタを軽くゆすってみる。ソラタの体に力がない。

兄

……………ソラタ？ソラタ？……………母さん！母さん！！

暗転

5

ソラタの部屋。ベッドにソラタはいない。兄が独りで椅子に座っている。枕元にはおもちゃの飛行機と、その後ろに空の絵葉書。

兄

……………飛行機の手ってくる、勇気じゃ足りなかったか？ごめんな。何にもしてやれなく

て。

雨が降り始める。兄は窓の外を眺める。

兄　　また…雨が降ってきた。雨じや、外で遊べないな。

兄、飛行機に眼をやる。

兄　　これ、不思議だよな。なんだか、飛行機が空を飛んでるように見えるんだ。小さな四角

い空だけど。これ、ソラタがやったのか？それとも……

兄は急に立ち上がり、屋根裏に向かう。屋根裏に上るとそこには、人形がひとつ残っている。

兄　　……なあ、いるんだろ？屋根裏男。……お前が…お前がソラタを連れていったの

か？ そうなのか？ ここに………いるんだろ？ お前も、ソラタも。返事しろよ。いつもみたいに音鳴らせよ。なあ…お願いだ………弟を、ソラタを帰してくれよ。もう、寂しい思いなんてさせない。家を出て行ったりしない。ずっと、この家にいるから、だから、ソラタを帰してくれよ！ どこにも………連れて行かないでくれ…。

雨音が激しくなる。

兄

どうして………

いつの間にか、ソラタの部屋にソラタと屋根裏男がいて、窓辺で話している。

ソラタ わあ、雨だ！屋根裏男さん、雨が降ってるよ！

屋根裏男 本当だ。雨だな。雨って言うのは、こういうものだったのか。今まで音しか聞いたことがなかったから知らなかった。

ソラタ あれ？屋根裏男さん、なんで屋根裏から出てこれたの？

屋根裏男 お前が元気になったからさ。

ソラタ え？

屋根裏男 ほら、ジャンプしてみろよ。

ソラタ、ジャンプしてみる。

屋根裏男 走ったりしてもいいんだぞ。

ソラタ 本当に？！

屋根裏男 ああ。もちろんだ。俺は嘘をつかない。

ソラタ 本当に治ったんだね。

屋根裏男 もちろんだ。さあ、約束どおり、外で一緒に遊ぼう。

ソラタ え…でも、雨が…

屋根裏男 関係あるもんか。雨だろうと雪だろうと、元気になったんだから外で遊ぼう。

ソラタ うん…でも…

兄が部屋に下りてくる。ぼうっと虚空を見つめている。

ソラタ 兄さん！

屋根裏男 やあやあ、ウソツキ兄貴。そうさ、コイツは元気になって、俺は屋根裏から出てきた

のさ。さあ、外で遊ぼう！

ソラタ 兄さんはウソツキじゃないよ。

兄、窓の外を眺めている。

兄 雨が…酷くなってきたな…ソラタ。

ソラタ え？

ソラタ、窓の外を見る。雨は相変らず降っている。

屋根裏男　今は雨さ。音を聞けばわかる。どっちでもいいから、外で遊ぼうぜ。俺は別に雨で

も晴れでも構やしない。

兄　……………ソラタ。

ソラタ　でも…

屋根裏男　なんだ、お前。外で遊びたくないのか？

ソラタ　そうじゃないけど…

屋根裏男　なら、外に出よう。

ソラタ　…

屋根裏男　俺は、一人でも外にでるぞ。

ソラタ　待って！僕も一緒に行くよ！

屋根裏男　でも、外は雨だぞ。

ソラタ　構うもんか！

屋根裏男 よく言った。さあ、行くぞ！

ソラタ ああ、でもちよっと待って。

兄、飛行機を見つめている。

屋根裏男 なんだ、早くしろ。

ソラタ 屋根裏男さんは…屋根裏から出られたのに屋根裏男さんなの？

屋根裏男 ふん。それは、確かに変だな。俺はもう屋根裏男じゃないな。

ソラタ じゃあ、何なの？本当の名前はないの？

屋根裏男 俺は屋根裏男だ。

ソラタ 名前がないの？

屋根裏男 そう呼ばれたことしかない。

ソラタ そんなのおかしいよ。ちゃんと名前があるはずだよ。

屋根裏男 誰も、他に呼んだ奴はいない。

ソラタ 僕と兄さん以外から呼ばれたことがないの？

屋根裏男 それは違う。

ソラタ どういうこと？

屋根裏男 俺は、お前にしか呼ばれたことはない。

ソラタ え？

屋根裏男 だが、もうそれも昔の話だ。今は違う。

ソラタ ……うん。

屋根裏男 俺は、屋根裏男じゃなくなった。

ソラタ ……うん。

屋根裏男 俺は誰でもなくなつた。

ソラタ え？

屋根裏男 屋根裏男はもうどこにもいない。

ソラタ じゃあ、僕がこの部屋からでたら？

屋根裏男 そうだな。お前も、この部屋から出たらお前じゃなくなるのかもな。

ソラタ そうなの？

屋根裏男 ソラタも、もうどこにもいない。

ソラタ ははは！変なの！

屋根裏男とソラタは二人で外に飛び出して行く。 兄は一人部屋に残される。

屋根裏から、天井を踏み鳴らす音だけが響いてくる。 兄は天井を見上げる。

暗転

雨音と重なり、天井を踏み鳴らす音がいつまでも響いている。